

平成29年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31208	心のはたらき Psychology	伊藤 亮	基礎	2	選択	1・2年 前期
<b>科目の概要</b>						
ピアヘルパーとはどんな存在なのかを知り、友達の相談に乗ったり、友達をヘルプするために、身につけておくべき知識とスキルを学びます。特に、ピアヘルピングにおいて重要となる臨床心理学の基礎を身につけ、カウンセリングのイメージを形成します。日常会話と異なる「ピアヘルピングのための会話技法」について習得します。						
<b>学修内容</b>			<b>到達目標</b>			
① ピアヘルピングの基礎知識を習得する。 ② 臨床心理学の基本を学ぶ。 ③ 精神障害の種類とメカニズムを理解する。 ④ こころの構造と発達を学ぶ。 ⑤ 他者とのかかわり方とカウンセリングの基本技法を習得する。			① 人のこころについて理解する。 ② ピアヘルピングと心理学の関連性について理解する。 ③ ピアヘルピングの基本的な心構えを築く。 ④ カウンセリングの言語的・非言語的技法を習得する。 ⑤ カウンセリングにおける問題対処法を習得する。			
<b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>		<b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例</b>				
前に踏み出す力	主体性	課題をするのに必要な知識について、教科書・文献を使って自己学修をすることができる。				
	働きかけ力					
	実行力	困難があっても目標を変更せず到達することができる。				
考え抜く力	課題発見力	思い込みや憶測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。				
	計画力					
	創造力	物事を考える時に、固定概念に捉われることなくいろいろな方向から考えることができる。				
チームで働く力	発信力	整理した内容を、的確な文章で表現できる。				
	傾聴力	人の意見を確認し、さらに自分の意見を述べることができる。				
	柔軟性					
	状況把握力					
	規律性	無断欠席、遅刻、居眠り、私語など講義に支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。				
	ストレスコントロール力					
<b>テキスト及び参考文献</b>						
テキスト:ピアヘルパーハンドブック 参考文献:なし						
<b>他科目との関連、資格との関連</b>						
他科目との関連:人間関係の心理 資格との関連:ピアヘルパー						
<b>学修上の助言</b>			<b>受講生とのルール</b>			
自分の体験や「今、ここで」の体験を関連づけて理解できると良い。			携帯電話は電源を切り、カバンにしまっておくこと。 遅刻は2回につき1回の欠席扱いとする。			

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験				
小テスト				
レポート	60	①	✓	課題「ピアヘルパーの理解と心構え」 ・臨床心理学の基礎的な知識は身につけているかを評価する。 ・ピアヘルピングに必要な心構えと知識、技術は身につけているかを評価する。
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
		⑤	✓	
成果発表 (口頭・実技)				
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①		(主体性) テキスト以外の文献・事例を見て、積極的に学ぶことができる。 (実行力) ピアヘルピングの課題について記述することができる。 (課題発見力) ピアヘルピングについて自分なりに疑問を見つけることができる。 (創造力) 発問において自分なりの考えを持つことができる。 (発信力) 必要な時に、意見を述べたり、発表したりできる。 (傾聴力) あいづちやうなづきなど話を聞く姿勢ができています。 (規律性) 遅刻、私語をせず、スムーズな授業進行に協力できる。
		②		
		③		
		④		
		⑤		
その他	30	①		・毎回の授業の終わりに、感想・疑問を記すミニレポートを課す。授業を受けて自分なりの感想や、授業内容に関する疑問点を記すことを評価の対象とする (2点×15回=30点)
		②		
		③		
		④		
		⑤		
総合評価 割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベル A(優)の基準	到達レベル B(良)の基準
臨床心理学の知識に基づき、カウンセリングの理念と基本技法について説明することができる。	ピアヘルピングにおける心構えを身に付け、対応の正否を適切に判断することができる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	『ガイダンス』 授業の概要と見通し、ピアヘルパーとは何かを理解することができる。	講義	ピアヘルパーのはたらきについて説明できる。	(復習) 授業内容をプリントにまとめ、振り返る	180	主体性
2週 /	『こころの構造』 心理学の理論に基づき、こころとは何かを理解することができる。	講義	こころとは何か?という問いに対し、自分なりに答えられる。	(復習) 授業内容をプリントにまとめ、振り返る	180	発信力
3週 /	『精神障害の理解と対応①』 主な精神障害の種類(統合失調症・うつ病など)と特徴を理解することができる。	講義	精神障害の種類の違いを説明できる。	(復習) 授業内容をプリントにまとめ、振り返る	180	創造力
4週 /	『精神障害の理解と対応②』 主な精神障害の種類(神経症・ヒステリーなど)と特徴を理解することができる。	講義	精神障害の種類の違いを説明できる。	(復習) 授業内容をプリントにまとめ、振り返る	180	創造力
5週 /	『ストレスの理解と対策』 ストレスの仕組みを理解し、自分の特徴を考えることができる。	講義	自らのストレスについて振り返り、今後の対策を考えることができる。	(復習) 授業内容をプリントにまとめ、振り返る	180	実行力
6週 /	『発達障害の理解と対応①』 主な発達障害(自閉症スペクトラム障害)の種類と特徴を理解することができる。	講義	発達障害の種類の違いを説明できる。	(復習) 授業内容をプリントにまとめ、振り返る	180	創造力
7週 /	『発達障害の理解と対応②』 主な発達障害(ADHD・LD)の種類と特徴を理解することができる。	講義	発達障害の種類の違いを説明できる。	(復習) 授業内容をプリントにまとめ、振り返る	180	創造力
8週 /	『子どもの心理学』 乳児期・幼児期の心と性格形成への影響を理解することができる。	講義	乳児期・幼児期にける心理的課題を説明することができる。	(復習) 授業内容をプリントにまとめ、振り返る	180	主体性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	『青年の心理学』 思春期・青年期の心を理解し、今の自分について考えることができる。	講義	思春期・青年期にける心理的課題を説明することができる。	(復習) 授業内容をプリントにまとめ、振り返る	180	主体性
10週 /	『大人の心理学』 成人期の心を理解し、今後直面しそうな課題に備えることができる。	講義	成人期にける心理的課題を説明することができる。	(復習) 授業内容をプリントにまとめ、振り返る	180	主体性
11週 /	『他者とのかかわり方』 かかわり方の基本を学び、関係づくりの楽しさを身につけることができる。	講義・演習	仲間と共に積極的に演習に取り組むことができる。	(復習) 授業内容をプリントにまとめ、振り返る	180	課題発見力
12週 /	『カウンセリングの基本』 カウンセリングの基本理念と技法を理解することができる。	講義	カウンセリングの基本技法を3つあげることができる。	(復習) 11回, 12回の授業プリントを復習し, 13回の実践に備える	180	傾聴力
13週 /	『カウンセリングの実践』 ロールプレイを通してカウンセリング技法(傾聴・共感・受容など)を身につけることができる。	講義・演習	演習を通して感じたこと・考えたことを発表できる。	(復習) 授業内容をプリントにまとめ、振り返る	180	傾聴力
14週 /	『事例検討』 事例を検討し、様々な問題への対応を考えることができる。	講義・演習	事例への対応を主体的に考え、記述することができる。	(復習) 授業内容をプリントにまとめ、振り返る	180	柔軟性
15週 /	『まとめ』 これまでの授業を振り返り、プリントを理解することができる。	講義	これまでの授業で学んだことを振り返り、要点をまとめることができる。	(復習) 授業プリントの復習	180	主体性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力